ば行政側の対応もそれだけ真剣にならざるをえないケースが多くなる。

例えば、所沢ダイオキシン問題で、市民グループとの討議をふまえて市長に提言したところ、正式な回答があり（内容的には評価できる点／不満な点両方あったが）、それがまた次の提言のベースともなる。つまり行政と市民運動との対話が不充分ながらスタートしたのである。同様のことは、他の市町村や区でも充分に可能と思われる。

主として環境問題をテーマに全国のかなりの地方で条例・住民投票・緊急差止・情報公開・行政訴訟など、行政と市民の接触が、協力・対決両面を含めてふえて来ていることは我が国の民主主義の為に喜ばしい。

(3)我々の提言も全く無駄に終わった訳ではない。他の団体や個人のいろいろな声と合体して「世論」の一部を形成し「清き一票」の積み重ねのように、少しでも正しい方向に進む一つの力にはなっていると信じたい。

祝「平成維新の会」旗揚げ５周年

調布市　石原裕鵬

平成維新が旗上げされてからはや５年が経ちました。会の提言にまちがいはないのですが、支持・理解されなかったことを真摯に反省し、改革を楽しみたいと思っています。

１００％ではありませんが、５１％以上の大前ファンであります。

１９９２年１２月『世界が見える日本が見える』から『平成維新ＰＡＲＴ２』まで、６年半にわたって「生活者」主権を掲げ、日本改革の処方箋を提示してきた大前氏は、ついに「平成維新の会」を旗上げし、自ら改革に立ち上がった。

１９９３年衆議院選挙で５０人の意志強固な集団ができれば、確実に日本が変わる。５０人の集団ができれば、周りの４５０人はあっという間に崩壊する。我々は立候補者と面接し、面談アンケートの結果を見て”推薦”を決定した。

”意志強固”と期待したのがそもそも間違いであった。党と会のどちらを優先するかは自明のことであった。会の推薦を得て当選した議員による約束反故が続出した。

１９９５年推薦行為に失望した「平成維新の会」は政治団体として自ら選挙にたつことを決意し、大前氏も都知事選に立候補した。都民の支持を得られず”敗戦”した。会は解散されたが、意志意思遺志は一人ひとりに引き継がれている。

１９９７年の都議選の結果を見ても”選挙に弱い”という事実を真摯に受けとめなくてはいけない。ただ、初志を忘れて”選挙”から逃げ続けていてはいけない。５年前の旗上げは”選挙から逃避”するほど”軟弱な志”からの”宣言”ではなかったはずである。

明治維新は鉄砲の弾で、平成維新は選挙の票で世の中が変わる（BY裕鵬）。

情報公開と規制緩和を両輪に、いい国つくろうがんばれニッポン！

政治は首相公選　経済は道州制　人生は楽しく

人平民：石原裕鵬

（平成維新フォーラムより転載）

【リレーコラム・生活者の眼】

お正月飾り

新宿区　笹本弘子

明けましておめでとうございます。今年から新しいコーナーとして、生活の中から感じた事をお伝えする「コラム」のような欄をもうけることになりました。第１回目が新年号という事でしたので、私の育った安中市（安中・榛名駅のすぐ近く）でのお正月飾りについて書いてみます。

国内でも地方地方でのいろいろな風習があるように、飾る物・食べる物・食膳も多種多様かと思います。門松や床の間の生花（梅・松・竹に水仙や千両）は今日に於いてもあまり変わりはないと思いますが、現在では神棚のない家や、祖霊舎など知らないという方も多いかも知れません。祖霊舎とは仏教での仏壇のようなもので、神棚におく社のように白木で造られたものが宮形の神棚です。

暮れになると近くの山に入り、前もってお正月用にと目につけていた松の枝や林の中から、やぶこうじの赤い実をつけた株をとって来ます。早咲きの梅の枝も近くの梅林で、青竹は家の瀬戸の竹やぶから自給自足の材料で、しめ縄や飾りも作ります。父の太いごつごつした指が不器用に和紙を折り、小刀で切り目を入れて短冊を作るさまは、見ていてもはらはらします。声をかけようものなら「そばに寄るな！」の一声で小さくちじこまってしまう私達でした。

このような作業を手伝いながら、子供でも刃物の使い方、縄の作り方など、自然と身につけたものです。神棚の前に天井から下げた縄と縄に竿をわたして、そこに昆布・するめ・みかん・ほうずき・干し柿・ずいきの束など海の物・山の物をつるして供えます。これらの飾り物は七草までで、次はどんど焼きのまゆ玉飾りにかわります。

近所にお店もない田舎ですから、みかんなど食べつくしてしまった後の飾り物のみかんは、手の届かない高さにある分だけ欲しくてたまりません。特に菜食しかしない片寄った食事を頑固に通していた私には、柑橘類は大好物でした。

ある年こっそり一対のみかんを、踏み台をして取って食べてしまい、ひどく叱られました。神様の物を取った事と、長女としての責任感を深く感じた幼い頃の思い出です。飽食の現在では、ほこりのついた干からびたみかんなど欲しがる子供はいないでしょうね。

今の東京ではほとんど見る事のないお正月飾りのお話です。みなさんのお家や郷里ではどのようなお正月をお迎えですか。